

平成31年度京都市立塔南高等学校 学校経営方針

校長 小野恭裕

1 教育方針

知性を尊び個性を伸長する教育を通して、高い学力と豊かな人間性を身に付けさせ、社会で活躍・貢献できる有為な人材を育成する。

- ① 知性を尊び、個性を伸長して、自らの進路を実現する、創造的で主体的な人間を育成する。
- ② 心身ともに健康で、社会との関わりの中で自己の在り方を追究する、誠実で心豊かな人間を育成する。
- ③ 豊かな人権感覚とコミュニケーション能力を養って、世界の文化の構築に寄与し、国際社会に貢献する人間を育成する。

2 学校経営の基本方針

本校は、「新しい普通科系高校」として、洛陽工業高等学校唐橋校地への移転・新校創設を控えている。新校は、「社会に貢献する生徒の育成」を学校の最高目標とし、本校の教育風土をしっかりと引き継ぐとともに、京都市南部の核となる学校たることを目指している。新校の準備を一層進めるとともに、新校への円滑な接続を視野に入れながら現在の塔南高等学校の改革もさらに推進していく。

- ① 学校のあらゆる教育活動を、ねらいと目標を明確にして実践し、評価を踏まえた改善を行う。
- ② 教職員それぞれの「学校運営に参画する」、「新校を創る」という意識を高め、よりよい学校づくりに向けた組織的教育力の向上を図る。
- ③ 「改革推進」「教務」「学校生活」の3グループが強いリーダーシップを發揮して、教職員相互、学年・教科・校務分掌相互の連携・情報共有を一層推し進め、課題を共有しながら、「チーム学校」として取組を進める。
- ④ 授業・特別活動・委員会活動・部活動・その他自主的な課外の活動等、すべての活動の中で生徒の主体性を育む。そのため、生徒が意欲と関心をもって積極的に取り組み挑戦することができるよう、生徒自身が考え、選択し、意思決定・運営する場面を設定する。生徒の自主性・自律性を大切にし、生徒のモチベーションを高め、自ら決定したことに責任感を持たせ、潜在的に持っている力を引き出す指導を心掛ける。
- ⑤ 効果的・効率的な学校運営を心掛け、会議・連絡・事務処理等の時間短縮を図る。教職員のワーク・ライフ・バランスに留意するとともに、それぞれの年齢や経験、条件等にも十分配慮した職場づくりを目指す。

3 本年度の経営方針

- ① 新校に向け、「自分たちが新しい学校を一から作り上げる」という意識をもって調査研究を進める機運を教職員間で醸成し、取組に一層広がりを持たせる。また、現在の塔南高校における取組についても、新校への円滑な接続を視野に入れつつ改善を一層進める。
- ② 生徒の学びのモチベーションを高め、ねらいと目標を明確にした、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に取り組む。
- ・研究授業や公開授業、校内研修に積極的に取り組み、指導の工夫、指導方法の確立に努め、教育効果を高める授業の構築を進める。
- 特に、英語科については、実用英語技能検定への対応を含めて、これまで以上に指導を充実・強化する。
- ・生徒の興味関心を引き出すとともに、「学ぶ楽しさ」を実感して自己教育力を一層高められるようにする。
 - ・合計3教室となったアクティブラーニング教室（以下、「AL室」と略す）や校内のWi-Fi環境・ICT機器を効果的に活用した教育活動を進める。特に、新たに整備した第3AL室は、第2AL室とつなげて活用することもできるため、新校で想定している一斉指導とグループ演習等を組み合わせた学びをはじめとする多様な授業の形態について研究を進める。あわせて、デジタル教科書、電子黒板をはじめとするさまざまなICT機器の活用についての研究も進める。
 - ・新校が学校のある南区唐橋を中心に京都市全体を学びのフィールドとする教育を開拓することを踏まえて、各教科においても地域と連携した効果的なフィールドワーク等の取組について研究を進める。
- ③ 総合的な学習の時間については、新校で目指すキャリア教育（なぜ学ぶのか、学びが社会や自分の将来とどうつながっているのかを意識させ、生涯にわたって学習する意欲を高める）の実現に向けて、各教科における学びとも一層関連付けながら、地域や企業・大学・研究所など外部とも連携を図りつつ、取組の流れや内容をさらに整理・充実する。
- ④ 教育課程については、絶えず検証と見直しに努め、より良いものを目指す。社会の情勢や入学生徒の特性の変化、高大接続改革や新しい学習指導要領の理念・方向性などを見据えながら、情報収集と研修に努める。生徒はもとより保護者に対しても、「学びの基礎診断」「大学入学共通テスト」等に関する情報をこれまで以上に適時適切に提供し、意識付けを図る。
- ⑤ 生徒の進路保障を最重点課題と位置づける。一人一人が夢や希望をもって自己実現を達成できるよう、3年間の学びの道筋をしっかりと示しつつ、人生のキャリアを考える教育とも関連付けながら、組織的・計画的に進路指導を行う。
- ⑥ 各学年とも、担任団と各教科・各分掌との連携協力・情報共有をこれまで以上に密にしながら取組を進める。
- 特に、「チーム（担任団として、教科担当者として）としての指導の充実・強化」「基本的生活習慣の確立と家庭学習時間の確保」、「模擬試験のデータ分析等客観的な指標に基づいた現状把握をもとにした指導方針・指導内容のアップデート」に努める。
- ⑦ 生徒一人一人がそれぞれの「善さ」を存分に發揮し、信頼・相手を思いやる心・謙虚な姿勢・やさしさなど「豊かな人間性」を育むようにする。生徒指導においても、生徒の「自ら律する力」を大切にしながら、場と状況に応じた適切な判断や行動を自

ら進んでできるようにする。

あわせて、これまで同様、「時を守り」「場を清め」「礼を正す」生徒指導に全教職員で取り組み、「遅刻をしない」「環境整備や美化に力を入れる」「正しい服装をする」「正しい言葉遣いをする」「きちんと挨拶する」ことを全生徒に守らせる指導を継続する。

- ⑧ 部活動や課外のボランティア活動への参加を奨励し、活動内容の充実に努める。

部活動については、「京都市立高等学校部活動ガイドライン」及び「京都市立塔南高等学校部活動運営方針」を順守する。その中で、年間を通して計画的に、また生徒の主体性を重視しながら、学業とのバランスやけが・疲労防止という観点にも十分留意しつつ、活動の量・密度・質の更なる工夫向上に努め、適切な活動時間を設定する。

ボランティア活動については、教職員側から参加を呼び掛けるものも含め、「学校運営協議会」の地域連携部会等とも連携しながら、一層の振興に努める。

- ⑨ 京都や日本の伝統文化や芸術に触れる取組を充実し、その魅力を知り、内外に発信できる力を育成する。

- ⑩ 国内外の学校等との交流活動を積極的に行い、視点も常識も異なる多様な人々との触れ合いを通じて生徒の気づき・成長につなげる。その中で文化・伝統の多様性を理解し尊重する態度を培う。また、「E S D (持続可能な社会づくりの担い手を育む教育)」の視点も大切にし、環境、人権、平和等「S D G s (持続可能な開発目標)」で示されている目標にも留意しながら取組を進める。

- ⑪ 集団の中で自他を尊重する意識、多様な特性を持つ他者の生き方を尊重し、ともに支え合える姿勢を育てる。いじめ等の人権侵害を絶対に許さない指導を進め、人権意識を高める取組を推進する。

- ⑫ 生徒の心の内面を多角的・総合的に理解するように努め、気になる生徒、困りを抱えた生徒、課題のある生徒の情報を共有し、時機を逸することがないよう、組織的な対応に努める。特に家庭環境や精神面に不安を抱える生徒に対しては、担任団と関係分掌が連携を密にし、生徒に寄り添う指導を行う必要がある。また、学校だけでなく警察や児童相談所など関係機関との連携を図りながら、個々の生徒の指導を充実する。あわせて、「特別な支援を必要とする生徒」への対応も充実強化する。

- ⑬ 前期選抜の検証と見直しを一層進める。また、広報も更なる充実を図る。特にホームページでの発信を増やし、教育みらい科と普通科の特色ある活動を中学校・保護者・地域へ積極的に広報する。

- ⑭ これまで本校がすすめてきた地域との連携を素地とし、唐橋地区への移転後を見据え、京都市全体を学びのフィールドとして地域・社会との連携をさらに進めるにあたって、教育支援組織としての「学校運営協議会」を設置し、地域連携部会を中心に各方面からの協力を得ながら、持続可能な連携の在り方について調査研究をすすめる。

なお、唐橋地区はこれまでから学校との連携に熱心な土地柄であり、新校への期待も熱い。洛陽工業高校の取組を受け継ぎながら、地域に愛される学校づくりを目指す。

- ⑮ 教職員の自己評価と生徒・保護者による学校関係者評価の分析結果をもとに、「学校運営協議会」の学校評価部会において、改善すべき内容の指摘や新しい取組の提言をいただく。学校運営協議会との連携のもと、改善に着手し実現に結びつけることにより、「学校評価」の結果を次の取組につないでいく。

- ⑯ 教職員が学び合い、高め合い、相談し合える風通しの良い職場づくりに努める。また、教職員の「ワーク・ライフ・バランス」に留意し、働き方改革を進める。